文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業/豊橋市学術振興事業
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催 2015年度国際シンポジウム

近代日中関係史の中のアジア主義—東亜同文書院と東亜同文会

13:00	開会挨拶　三好 章（愛知大学東亜同文書院大学記念センター長）
13:10	趣旨説明　馬場 毅（愛知大学名誉教授）
13:20	野口 武（愛知大学東亜同文書院大学記念センターポストドクター、愛知大学非常勤講師） **明治中期の貿易活動における日清貿易研究所の位置**
14:00	武井 義和（愛知大学東亜同文書院大学記念センター研究員、愛知大学非常勤講師） **山田純三郎の孫文支援について**
14:40	李 長莉（中国社会科学院近代史研究所研究員） **何天炯、宮崎滔天と孫中山**
15:20	休　憩
15:30	馬場 毅（愛知大学名誉教授） **大アジア主義から「脱亜入米」へ**
16:10	堀田 幸裕（一般財団法人霞山会文化事業部課長補佐・研究員） **東亜同文書院の「復活」問題と霞山会**
16:50	休　憩
17:00	総合討論（17:50 終了予定）

聴講無料
予約不要

東亜同文書院およびそれを経営した東亜同文会の体現したアジア主義は、19世紀末、列強の中国分割の危機に際して、日中連携して列強に対抗して「中国の保全と改革」を目指しました。しかしながら、他面に於いて日本が台湾、朝鮮の植民地化をし、列強の後を追う中で、「中国の保全」は、列強に対抗して中国での日本の勢力拡大という侵略の論理にも転化しました。つまりアジア主義は中国およびアジアと連携する側面と侵略する側面が存在し、アジア太平洋戦争期まで続きました。本シンポジウムでは、日中連携するための人材養成機関であった、東亜同文書院の原型となった日清貿易研究所、山田純三郎の孫文支援に見られる日中連携しての中国の改革支援の動き、中国の革命家何天炯、東亜同文会員宮崎滔天と孫中山の関係に見られる中日連携の動き、アジア主義から戦争中の大アジア主義への移行、戦後の連合国軍（アメリカ軍）占領を経て独立以後までの日本の変化とアジアへ向き合い方、戦後における東亜同文会の後継団体である霞山会による東亜同文書院復活の動きについてとりあげ、各時代のアジア主義の発露である個別の事例をとおして、日本におけるアジア主義の問題、アジアへの向き合い方を議論してみたいと思います。

日時　2015年12月6日［日］
会場　愛知大学豊橋校舎研究館 1F

愛知大学東亜同文書院大学記念センター
〒441-8522　愛知県豊橋市町畑町 1-1
TEL : 0532-47-4139　FAX : 0532-47-4196
E-mail : toa@ml.aichi-u.ac.jp
URL : http://www.aichi-u.ac.jp/orc/